

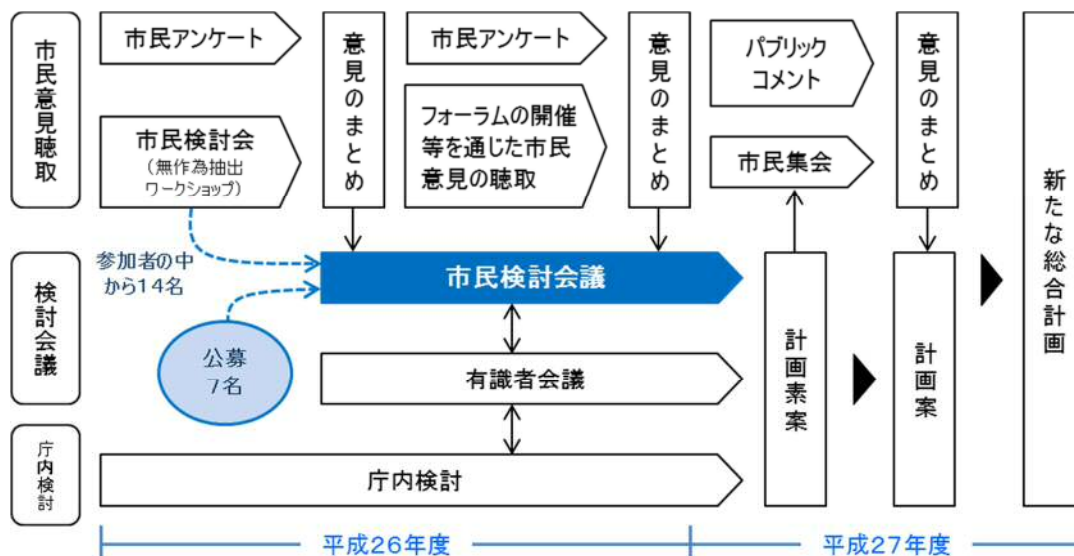
川崎市総合計画市民検討会議

第1部会 開催結果

日時:平成26年11月1日(土)13:30~17:15
会場:川崎市役所 第4庁舎 第6・7会議室

1. 「川崎市総合計画市民検討会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、市民の視点での意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画市民検討会議」をスタートしました。
- 「市民検討会議」では、部会による議論を行うほか、全体会で意識の共有化や意見の集約を図るとともに、別途設置する「川崎市総合計画有識者会議」と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。



2. スケジュール

平成26年10月4日(開催済)	第1回全体会
11月1日(開催済)	第1部会(社会福祉(介護、健康))
12月21日	第2部会(子育て、教育)
平成27年1月25日	第2回全体会(第1、第2部会の共有と防災・コミュニティ)
2月8日	第3部会(暮らし、交通)
3月1日	第3回全体会(第3部会の共有など)

3. 会議の構成

- 会議は下記のとおり、市民21名とコーディネーター(学識経験者)1名の計22名で構成されています。

公募市民	7名
無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者	14名
コーディネーター(中央大学法学部教授・川崎市在住 磯崎初仁氏)	1名

※20代~70代の市民。各区概ね均等な人数で、男性11名・女性10名(コーディネーターを除く)

- 第1部会（社会福祉（介護、健康））については、下記のとおり市民委員11名が2グループに分かれてディスカッションを行いました。

1グループ (6名)	加藤浩照委員、山下博子委員、片山利昭委員、長谷川秀子委員、青柳昇二委員、外山瑠美委員
2グループ (5名)	飯田真委員、辻麻里子委員、新富征人委員、小池朋子委員、川島弘一委員

4. 第1部会の開催結果

(1) コーディネーターあいさつ

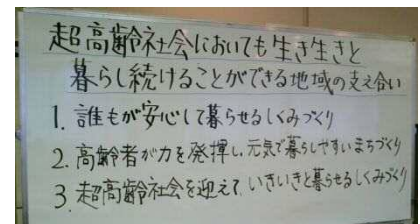
- 会議の総合調整を担っていただく中央大学の磯崎教授からは以下のようなお話をいただきました。
 - 今回は『社会福祉』のテーマに絞って、ディスカッションを中心に進行する
 - 職員も同席し、時間を取ってじっくりと深堀していきたい



コーディネーターの
磯崎初仁中央大学教授

(2) グループディスカッション

- 2つのグループに分かれて、「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」「超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり」の3つをテーマに、グループディスカッションを行いました。



3つのテーマ



①市の職員から市の状況について説明



②みんなで意見を出し合います



③意見を模造紙にまとめていきます

- 主な意見としては、以下のようなものがありました。

➢ テーマ1「誰もが安心して暮らせるしくみづくり」

グループ1

- ◇ 困っている人の情報が把握できないことが問題であり、挨拶や声かけで地域での関係をつくるとともに、気軽に集まれるところを地域につくることが重要。
- ◇ ボランティアや見守りをやってもよいという人は多いため、行政が情報提供を行うとともに、それらを地域でコーディネートする力の育成が必要。
- ◇ 家族・地域・行政が連携し、予防・事前対策に取り組むことが重要。



グループ2

- ◇ 高齢者自身が、元気うちに介護や福祉の情報を知ろうとする意識が大切ではないか。
- ◇ 地域で支えあうためには、介護が必要になる前からのご近所との関係づくりが重要ではないか。
- ◇ 行政による支援は充実しているが、情報が届いていない。届け方に工夫が必要ではないか。
- ◇ 介護を担う専門人材を確保する仕組みづくりが必要なのではないか。



➤ テーマ2「高齢者が力を発揮し、元気で暮らしやすいまちづくり」

グループ1

- ◇ 高齢者が参加したくなる仕組みづくりが重要であり、地域にコーディネーターが必要。地域にはいろいろなスキルや経験を持った高齢者がいるため、地域シルバーセンターを設置して、「地域の便利屋集団」にしてはどうか。
- ◇ 高齢者が外に出て、交流することが元気の源になる。そのためのやる気を起こすしかけづくりが必要。タウンニュースなどの地域情報紙による発信を強化したり、行政の業務の一部を高齢者に委託したりしてはどうか。

グループ2

- ◇ 高齢者の“出番”を作ることが大切。町内会など地域での活動や、ボランティア活動など、高齢者が自分のスキルや経験を発揮できる機会を創出する必要がある。
- ◇ 世代を超えて繋がりをつくるのが大切。保育園・幼稚園・学童などと、老人施設を近い場所に置くなどしてはどうか。
- ◇ 行政は交流の場ときっかけを提供し、あとは市民同志が連絡して、世代を超えたナナメの関係、コミュニケーションの場を作り出していければいい。

➤ テーマ3「超高齢社会を迎えて、いきいきと暮らせるしくみづくり」

グループ1

- ◇ 食生活の改善や運動とともに、検診を促進することが重要。検診に足が向かない高齢者がいるため、区民祭への検診の出店や大学と連携による出張検診はどうか。
- ◇ 子ども・若年層との交流促進が重要であり、小学生とのコラボや高齢者と若者のシェアハウスなどが有効ではないか。
- ◇ 他地域との交流や施設の相互利用など、広域的な調整も重要。



グループ2

- ◇ 高齢者が日常的に地域に出ていく機会を創ることが必要。例えば地元商店と連携した買い物ポイントなどを作ってはどうか。
- ◇ 高齢者だけではなく、子どもも女性も集まる場が必要。コミュニティキッチンなどの気軽な多世代交流の場を作ってはどうか。
- ◇ 運動のきっかけづくりのために、生田緑地や多摩川など川崎市内の自然資源を活用したイベントを行ってはどうか。また日常的な運動機会をつくるため、多摩川にスポーツ拠点を設けてはどうか。

(3) 成果の発表、シール投票、コーディネーターまとめ

- 各グループの代表者から成果発表を行った後、シール投票を行いました。



グループの代表者による発表



グループ発表後のシール投票

- 最後に、コーディネーターの磯崎教授から、話し合いの内容をキーワードで総括していただきました。
 - テーマ1:「情報の共有」「人間関係」
 - ・支援が必要になる前からの関係づくりが重要。個人情報保護の壁があるからこそ、日頃からのコミュニケーションが大切である。
 - テーマ2:「出番」「場づくり・きっかけづくり」
 - ・主体はあくまでも市民であり、出番をつくることが重要。そのきっかけづくりは地域や行政が行う。
 - テーマ3:「メリットと見える化」
 - ・民間も力を出しながら、メリットを感じるために見える化をすることが重要。高齢者やその予備軍のやる気を引き出すことが必要。



グループのまとめ

→ 本部会の成果は、第2回全体会に報告し、市民検討会議全体で共有し、話し合いに反映させます。

